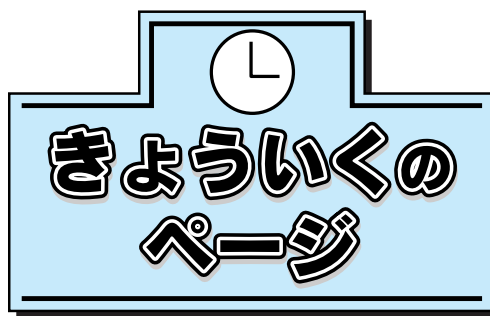




英語指導助手として昨年7月に来村し、中学校を中心に活動をしてきたベッキーさんが、1年間の任期を終え母国イギリスへ帰国されました。



「Becky 先生メッセージ」

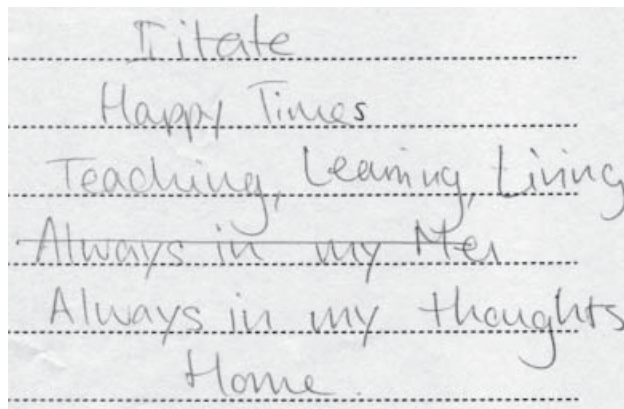
この1年は、私の人生において最も大切な年となりました。イギリスを離れる時は、言葉が話せない国で一人で暮らせるかどうか不安でした。

振り返ってみると、一番感じたことは飯館村の人々の温かさや優しさです。短い間でしたが、ホームシックになったり、日本語が話せず苦労していた時に、皆さんはいつも優しくしてくれたり、気にかけてくれました。買い物の仕方、お祭りに参加した時のことなど、今まで皆さんが私にしてくれたこと全てに感謝します。飯館村で私自身が成長したことを感じていますが、イギリスへ帰ると本当に飯館村のことを思い出して寂しく感じると思います。

「頑張る」精神で、私は夢を追いかけることにしました。飯館村のことを思い出しながら、自分がしてみたいことを精一杯頑張りたいと思います。これが「さようなら」ではなく、また飯館村に帰って来たいと思います。私のことを忘れないでください。私も飯館村を忘れません。色々ありがとうございました。

ベッキー

※ベッキー先生が飯館村への思いを込めて授業中に書いた詩を紹介します。



子育て相談室 — お気軽にご相談ください —

箸使い

箸使いは日本が世界に誇る文化の一つです。お宅の子どもさんの「箸使い」はいかがでしょう。親指の根元と薬指に1本を固定し、3本の指でもう1本を自在に操り、はさむ、つまむ、運ぶ、ほぐす、切る、裂く、つぶす、すくうなどができているでしょうか。

かつてわが国では、子どもにも箸使いをはじめ、食事の作法を教えるのは父親の仕事でした。父親はわが子に正しい礼儀作法を伝えることで、人に対する心遣いや思いやり、他人に不快感を与えない道徳の指導をしていました。そして、それは子どもを自立を促す父親がする大切なしつけでした。正しい箸使いの未習得は日本人としての美徳の崩壊です。

もろづかみや3本の指での握り箸は見えて醜く、また大人になってまで続けていますと、いつも「はじ」をかいていることになってしまいます。気がついたら、教え直しをすべきです。子どもは教えられれば、習得できるのです。父親の登場が期待されています。

飯館中学校および相農飯館分校
スクールカウンセラー

海野 和夫